

視聴覚教育

NO 198

発行日
5. 12. 1発行
岡崎市AVL編集
広報委員会

第四十四回放送教育研究会

全国大会に参加して

視聴覚指導員 山田 賢平

十月二十九日(金)に第四十四回放送教育研究会全国大会が宮城県仙台市で開催された。「自ら学ぶ意欲と主体的に生きる力を培う放送教育をすすめよう」をテーマに、午前中は校種別公開授業と研究交流会、午後からは仙台国際センターにおいて、三つに分かれてのセミナー(①「心の豊かさ」と放送の役割」②「放送と体験学習の接点を求めて」③「放送で育つ情報活用能力」)が開かれた。日程の最後の全体会では、鈴木克明・東北学院大学助教授、水越敏行・大阪大学教授ほかのシンポジウム「ハイビジョンがひらく明日の教育」が行われた。

放送番組を活用し、「与え・育てる」学習から「子供自ら学ぶ自主的学習」をどう育てるか。また、情報化社会の中での情報活用能力、思考力や直感力、表現力をいかに育成するか。この二点についての活発な論議が各研究交流やセミナー、シンポジウムでなされた。

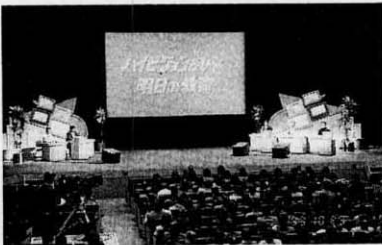
公開授業では、特に仙台市立福室小学校でのハイビジョンとパソコンを取り入れた授業が注目を集めていた。ハイビジョンの視聴から子供たちがそれぞれの実験や調査に取り組み、その結果をパソコンに入力し、データベースを作っている。そして、そのデータをパソコンを含む様々なメディアを使って発表する実践が公開された。最後の全体会では、ハイビジョンによるパソコン通信で会場と教室をつなぐ試みがなされ、福室小学校の授業と全体会での討論を合体する新しい試みが展開された。「ハイビジョンとパソコンは相性がよい」これが今大会でNHKの最もアピールしていたことである。三百インチのリヤプロジェクションで拡大された映像でもかなりの精度で視聴することができ、映像の中にパソコン画面を元のまま取り込んでいることは驚きであった。

これからの放送教育について、新学力観とのかわりでの次のような提言があった。

・一斉授業による一つの収束ではなく、課題がより広がっていくようなメディアの組立てが必要である。

・子供が情報を受信し発信できるように、メディアに双方向性を持たせるべきである。

・子供の手によるデータベースの作成を進め、それをネットワーク化させることによってさらにメディアアリティを育てることができ



身近な自然に

興味を持たせるために

竜美丘小学校 上原 健次

十月二十六日、二十七日に金沢で行われた東海北陸放送教育研究大会の理科部会に提案者として参加した。部のテーマは、「自然の事物や事象に興味・関心を持ち、主体的に学ぶ子供を育てる研究をしよう」である。

六年「土地のつくり」と「植物のつくりと働き（水の通り道）」の学習を例に学校放送番組の利用について提案した。提案の内容は次のようである。

- ・導入時での利用……「大地の下の物語」を視聴させ、身近な自然事象（乙川の川原や小豆坂のがけ）に目を向けさせ、授業を展開していった。
- ・終末の段階での利用……授業のまとめとして「巨木を上げる水」を視聴し、野鳥の森の木々と比べ、発展課題を作った。



「理科の授業で何を育てようとしているかを、授業者は常に頭に置くこと、そのための視聴覚メディアの生かし方を考えることが大切である。番組を全部見せるのか、部分視聴にするのか。導入、展開、まとめのどこで活用するのかは教師の意図次第である。」というご指導をいただいた。今後の指導に生かしていきたい。

ライブフリーだより

☆全国自作視聴覚教材コンクルールの結果

去る十月二十七日、全国自作視聴覚教材コンクルールが東京で開催されました。全国から多数の応募（129作品）があり、同コンクルールにおいて、社会科部・理科部・視聴覚部で制作した自作ビデオ二作品が栄えある賞に選ばれました。

〈文部大臣賞〉「和算」 14分16秒

〈入選〉「生まれ変わる石」 11分47秒
社会科部 理科部・視聴覚部制作
中3理科

☆全国小学生ビデオコンテストの結果

身近な生活環境を題材に、小学生を対象として同コンクルールが行われました。コンテストの結果については左記のとおりです。

〈優秀賞〉「ぼくらの友達・びゅ〜太君」 上地小

「私たちの宝、乙川」 秦梨小

十一月十三日に東京・都市センターホテルで表彰式が行われました。

☆インドネシア教育テレビ局、細川小学校訪問

外務省海外広報課招待、インドネシア教育テレビ局制作、「日本の教育用テレビ放送」（仮題）の一部として岡崎市における放送教育、視聴覚教育について取材・撮影が行われました。研究先進校として細川小学校が選ばれ、地域や学校における実践が収録されました。

